進め！　MSS推進部

公平部長の奮闘記

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

その日　公平は産業廃棄物運搬収車に同乗していた
朝7時に　武蔵野線北朝霞駅に　産廃ドライバーの細井さんと待合せ
人生初の建築系産業廃棄物の収集に向かった

2012年7月　公平は5年間の物流業務を離れ　マテリアルサービス推進部へ異動と
となった　突然の異動の中　慌ただしい引継を終え
7月　まず第一に現場の最前線の産廃ドライバー同乗を行った
それは　答えは現場にあるという物流改善経験の方程式から　当然の行動だった

旭日を浴びながら高速を走り
現場8:15着　8:30まではスクールゾーンの為　現場に侵入禁止
8:30ちょうどにゴミ置き場まで車を詰め　ゴミの収集を開始した
細井さんはエプロンと腕カバーを用意して　ゴミを手で運び始めた

公平も飛び出し　共に　ゴミを2トン車につめはじめた
細井さんは　公平は助手席で現場を見ている物だと思っていて
「あぶないですよ～」と
あわてて手袋を持って公平の元に駆け付けた
公平は　しっかりゴム手袋は用意していて
「早く　片づけて　次行くよ～」と叫んだ

15分もすると二人は汗びっしょりになった
現場で　女性事務員がお茶を持ってきてくれた
握っては　投げ　握っては　投げ　ゴミを掘り込んで行った

見ると　細井さんは時々　荷台に上がりゴミの固まりを前面方向へ移動し
次のゴミのスペースをうまく作っていた

ゴキブリ等の昆虫の死骸　釘　鋭利な金属片など　様々なゴミが混ざっていた
40分後　綺麗なゴミ置き場となり水で洗い流し　2トン車に4リューベイ程の
ゴミが埋まった時　公平の握力は無くなっていた

「細井さん　毎日こんな感じなの」と公平は聞いた
「そうです」と白い歯を出してニィっと笑った

ここにも　人知れず闘う　男達がいる事を　公平は知った

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

産廃は2トン車の場合　標準積載量4㎥
(1㎥は　1MX1MX1Mの立方体)
4トン車は8㎥が　標準積載量となっています
2トン車　4㎥手積みで　一人だと約90分程掛ります
4トン車だと積載量多く　一人で約120分はざらに積込作業をしています

積み込んだ後　中間処分場に持ち込みます
待機時間約25分後　重機が荷台をほんの2分程で混合物を押し出します
処分場は　キングギドラのような重機がうごめいています
埃と熱にまみれた処分場をあとに　次の収集に　向かいます
処分場は17時迄の最終処理受付が多く
移動時間と中間処分場までの距離が長い場合
最適な拠点での処分場の確保が重要な問題となります

公平は　産廃ドライバーから希望の地区を聞き
新たな処分場の開拓に乗り出した
ドライバーの希望するエリアの処分場はなかなか見当たらず
役所の廃棄物指導課など伺い　適正な業者の紹介など
様々なルートより開拓を行った
公平は物流担当時代に新センターをつくった経験から
必ず良い所を見つけると固く決意していた

ある日　希望エリアから離れている処分場の営業マンとアポがとれ
打合せに入ると　そこは4ヶ所処分場があり　希望するエリアに近い所も
処分場があることがわかり　早速　産廃の低橋リーダーと現場を訪問

まさかこんな便利な所に目立たないであるなんて
現場対応も良く　早速契約し　有効な中間処分場として活用する事が
出来ました

ドライバーの走行距離も平均月/500キロ短縮出来
「体が　楽になりましたニィ」と笑顔でドライバーが収集に向かいました

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

物流ドライバーの場合はフォークリフト等利用し最初に荷物を多く詰め込みます
そして　配達を進める程に荷台が軽くゴールが見えてきます

産廃の場合は反対で　時間と共に積込ゴミが増えて行きます
時間をかけ満載し　処分場へ　そして又　次の現場に積込に向かいます
どちらも大変ですが　夏場のゴミの手積みは体力の消耗が激しいのです

建築系産業廃棄物のみでなくドラム缶の廃油も廃棄処分を行います
9月　廃油処理キャンペーンと銘打って　キャンペーン特価での処分費で
チラシを作り　キャンペーンを開始

物流ドライバーが応援で配達現場に納品時チラシを合わせて配布してくれ
多くの反応があり　キャンペーンは大成功

但し　その中で　廃油は何が含まれているかまったく不明で
人体に悪影響のある液体が混ざっている可能性も多く
その取扱いは神経を使います

9月まだまだ暑い中　その作業に当たっていた
ベテランドライバーの低橋リーダー
通常は防護服にゴーグルを使用し安全に作業を行うが　たまたま
暑さもあり防護服無しでの作業中　廃油が数滴右頬に付　あわてて作業服袖で
拭いたところ　1時間後に　痛みと腫れが
完全にアレルギー反応を起こし
右目がふさがるほどの症状となった

翌日　病院へ行き注射を打ち安静

ベテランでも　ちょっとした油断で　腫れる程　スゴイ・アブナイ作業をしています
ドラム缶180Lの重さ　回しながら詰め込む手際の良さ　油まみれになる作業服
腰に　コルセットを付けて
「あら　よいしょ～　ほらせ～」と自ら気合を入れて
詰め込む姿
ここにも　まったく人目につかず汗を流す　男達がいる事を誇りに想い
こんな　男達を知ることが出来てよかったと思う　公平だった

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

MSS推進部は産廃ビジネス以外にウレタン防水材を機械で屋上へ圧送するUMマシンのレンタルビジネスと特別販売促進チームの3本のビジネスを行う部だった

そのUMマシンビジネスは起ち上げて　10周年を迎えようとしていた

10年の歴史の中　機械が止まったり　ホースが破れたり　現場で火災を起こしたり
そのマシンを操作するオペレーター達が様々なんちゃってオペレーターとして活躍し
社内・外からも　なんちゃってオペレーターとしてのステキな地位とブランドを
確立しつつあった
合い言葉は　「3歩進んで4歩下がる」

現場作業で作業服は汚れ　第三者からは「なんちゃって～だよな」と思われ
長い間に　身も心も　なんちゃって～　になっているオペレーター・・

その中で　まだOP(オペレーター)になって2年目の　松井OPは
濃いめの顔を　さらに濃くしながら
「公平さん　お・俺は　前進したい　せめて2歩下がるにしたい」
と　少年マガジンの　はじめの一歩　を手に　叫んだ

アサヒ芸能を握りしめた公平は
「よーし　それじゃ皆でそろそろ前進しようじゃないか---」と
各OPとの現場打合せ・現場施工　同行が始まった

公平は　現場に出て驚いた
それは　打合せの80%以上が　リピーターだった
「早くて助かるよ」「また　宜しく頼むよ」などの　言葉を直接耳にした

同行施工において　朝6:30　押上駅待合せ　車同乗し　15:00　施工終了
その後　共に昼食をとり種々話を聴いた

これからの　少子高齢化社会に向かう中　この機械施工のレンタルシステムは
時代をリードする　システムだと確信した

なんちゃってオペレーターが　輝きのオペレーターへと変わる時代が
もう目の前にあると　公平は思った
これから　面白くなると・・・・　　面白くすると・・・

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

UMマシンのオペレーターは　間抜けだけど本当はステキな男達だった

8年前　物流一匹ドライバーからスカウトされOPになった　江口OPは
機械いじりが大好きだった　若いころは改造バイクで特攻服

UMマシンも　最初の組み立てから携わった

ただ江口OPはすべてにおいて説明がヘタだった
「バッとやって　ピッとする　そしたらダダダっと流す」
すべてが　そんな感じだった

ただ　現場では　現場職人どうしで一番なじむのが早かった
もう何十年も共に　この現場で仕事をしているような
空気感を自然に出していた

そして　最後まで自分の責任でやり遂げると決めた事は　徹夜をしても
ホースをつなぎ留めたり　ギアポンプを交換したり　工夫をかさねた

まさに職人魂だった

江口OPの弱点は　漢字だった　現場住所が読めない事が多々あった
又　辛い物が　苦手だった

ある時　中華料理店に行った　なぜか江口OPは担担麺を注文した
壁には「おすすめ辛口担担メン」とあった

水を何度も口に運び　何とか食べ終えた　しまった　と言う顔をして
汗を拭いていた

2つの弱点が　見事にハマったのだと確信している･･･

おすすめメン･･

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

6年のキャリアがある　加山OPは　何時も慎重だった
それは　OPになって3日目　機械操作もなにもわからず
マシン製造元と同行し　現場施工を行った時に
ほんの1時間で　その製造元が　「じゃ　後　ヨロシク～」と言って
さっさと　帰ってから　機械が　ピーピーと異常音を鳴らし始めた事による

一人ぼっちで　何が起こったのか解らず
頭の中は　真っ白になった
そのせいか　明日のジョー　最終回のように　施工終了後は　白髪になった

先輩の江口OPにあわてて連絡した
「ぱっとポンプみて　ボタンをピッと押せばいい」と適格な江口OPの指示を受け
更に　白髪になった

五十肩OPが1時間後現場急行した
液面センサーの揺れによる異常音が原因で　施工上は問題なかった
五十肩OPは　コノヤロー　止まれ　といってポンプを叩いて
音を　たまたま止める事が出来た
現場では　暖気中は音が鳴るのです　と　その場を納めていた
その頃は　全てが　なんちゃって　だった・・・

その後　加山OPは　慎重度が増し
何度も　ホースの点検　部品の点検　工具の点検を行うようになった

点検につぐ点検で
現場に行くことを忘れた事もあった

なんちゃってのの横綱だった・・・

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

2年目の松井OPは　学生時代　スポーツに打ち込んだ
インド発祥のガバディーというスポーツのチームを起ち上げ　競技人口が少ない
その隙間をぬって　日本代表にもなった

アジア海外遠征した時　もともと濃口の顔だったので
現地人と間違われ　日本代表にクレームがついた事があった

現地では「ふざけんな～　俺の大和魂見せてやる～」と叫び
日本では「ふざけんな～　俺は日本人だ～☆ДИ○ш～」と叫んでいた

その多国籍松井OPが　2年前OPに成ったころ
新規事業として始めたUMマシンシステムも7年目を迎えようやく世間から
認知を受け　リピーターの数が増え始めていた

もともと営業だった　松井OPは　UM現場施工後
多くのお客さんから「ありがとう　助かったよ」
の　声を直接聞いた　それは新鮮な感動だった
営業時はお客さん　上司から「この　多国籍野郎～」と叱られていたのに
今は　本当に感謝されて「また宜しくね」と言われると
今までの　疲れが　すっ飛んだ

この　思いは　3名のOP共通の　思いだった

だからこそ　松井OPは　一歩前進できると感じていた

しかし　現場は
「パッつとやって　ザザっと出す」「・・点検中・・」「☆ДИ○ш～」

なんちゃって～の嵐が　まだまだ吹き荒れていた

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

ボーリングでストライクを出すコツ
それは　センターピンを狙い　倒す事

公平は　UMチームのセンターピンを　施工現場数と定め
共通の言葉として「チャレンジ200現場」と銘打ち　各所に貼り紙をした
それは　今までの単年度の最高施工実績の160%アップの目標だった

3名のOPの言語に　チャレンジ200をすり込んで行った
1名にすると年間　約70現場
月に均すと　6現場　各OPが具体的イメージがインプットされてきた
「チャレンジ200」の旗印があってから
なにか　軸が定まったようになった
3名のOPの呼吸が少しずつかみ合ってくるのを公平は感じた

各人が好き勝手に発言しても　その先に「チャレンジ200」があった
8月　単月で過去最高記録の施工件数がでた
ラッキーな面もあったが　皆の目が輝いた
皆　お客さんから「ありがとう」と言われるのが快感となっていた

公平は　集中して共に施工現場に立ち会った
そして　施工後実際の職人さんの生の声を聴きまくり
チャレンジ200の張り紙と共にOPと記念写真を撮った
その　すべての写真が　本当に良いシステムで「助かったよ　ありがとう」の
声が聞こえる良い写真だった

又　材料ドラム缶を手配して頂く　メーカーの工場に松井OPと伺い
業務の皆様と　生で話し合いの場を持った
その　ドラム缶を配送頂く　運送協力会社にもお礼状を書いた
それは　そのバックグランドの協力が無ければ　業務が回らない事を
物流で経験したからであった

ドラム缶の配送は特別な車での輸送で　施工時の天気で中止となり　材料持ち帰り
など　お互い不都合な事も多々あった　しかし　その後OPとそのドライバーが
個人の携帯で　やり取りし段取りを調整するまでに　後半戦は進んで行った

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

UMマシン車輛は4台あったが　OPは3名だった
公平は現在　年/260トン体制から
先々　5名　800トン施工体制を作ろうと思った
この体制なら　800トン施工したなら　全国制覇だと思った

急ぎ　1名のOP増員を考えた　2年後を思うと　絶対に必要な事だと思っていた
但し　景気見込は決して安心してはいられない状況で　人員増は難しいムードだった

公平は社長に言った

「パッつとやって　ザザっと人が必要」
「・・点検中に付　人が必要」
「☆Д И O ш～人が必要」

社長「？？？？・・つまり通訳が要るということだな」
という事で　なんちゃって交渉を終え　1名の増員をする運びとなった

その後
タウンワーク誌で厳正な面接審査を終え　司法試験の次に難しいとされる
UMオペレーターに石山君がオペレーターとして新規採用された

石山OPが入ったことによって先輩OPも先輩としてヘマできないと
新鮮な気持ちが再び蘇った　石山OPから質問があると　なぜなんだろうと
先輩OP達も共に考えるようになった

「そんなことはパッとやるんだ」
「いや　もっと慎重に点検してから」
「☆カ Π バ И デ★ィ～」

皆が　北京原人から縄文人　弥生人へと　進化を遂げていった

公平は　大化の改新をひたすら待った

そして思った「和をもって尊し」と

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

UMマシンはヤラセーヌという商品を圧送するマシンで　そのヤラセーヌは
会社の柱となる商材だった　そしてヤラセーヌには全国にその工業会員がいた

公平がヤラセーヌ会員名簿を見たとき　UMマシンをまだ使ったことが無い会員が
50%以上いた　　こ･これは宝　発　見～ん

ここの人達に「たいへんだー弥生人が火を起こせるようになりましたよーっ」と
ニュースレターをお送りさせて頂こうと考えた

ここの名簿の方達は　もちろん産廃もご利用の方もいらっしゃるし
特販の商材も十分　興味をお持ちのお客様だった

「えっ　火･･弥生人が？･　それってあったかいの･･」
「もちろん　あったかいですよ-　ぜひ一度　火を起こさせてください」

こんな感じで　奈良～平安へ向かおうと思った

そしてその頃　UMチームの現場では　なんと　源氏と平氏に分かれて
お互いの　スキルを磨く闘いが展開されていました
そう　漢達は　現場で闘いを開始し始めていたのです

過去にメンテ不備で　落ち武者になったOPの姿の話を通し
デジカメでわかりやすく撮影した　メンテマニュアルの作成など
誠意大将軍の書類を整え始めていった

そして2013年1月　そんな念いのつまった
MSS推進部ニュースレター　「金の汗」が創刊された

公平にとっては　大阪単身赴任時の「西からの風」　物流部時代の「走れ明日へ」
に続く　ニュースレター「金の汗」　まさに3部作堂々の念いのこもった創刊となった

2013年元旦　元初の日を仰ぎ見ながら　公平は気合いを込め叫んだ

「☆ДИ〇ш～↑Ю～」

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

金の汗を創刊し　実際にUMマシンをリピート頂く施工店さんに
その現場施工担当オペレーターと訪問し　インタビューが始まった

メーカーや当社がPRしたら胡散臭い話も
実際に使用して頂いているお客さんの生の声は説得力があった
こちらが　なるほどそうだったんですね　と目からうろこのお話も伺えた

先輩同行していた　石山OPは初めての現場で君が石山君だねと　レターを見た
お客さんから　声をかけて頂いた

嬉しかったが　内心　こりゃ～今後絶対ヘマできないぞ　と
さらに気合いが入った　その顔は　もう戦国時代の戦う若武者の面構えに
近づいて行った

そして先輩オペレーターの面構えも　落ち武者でなく　武将としての意識が
芽生えていった

全員が　チャレンジ200へ　いつの間にか　戦国武将になっていった

UMマシンが活性化すると　空ドラムの回収のある　産廃も活性化し
産廃ドライバーもまた産廃スケジュール管理の砂糖さんと　UMオペレーターと
活発なコミュニケーションが芽生えはじめ　スイッチが入りはじめた

ゴミまみれ　と　なんちゃってが　薩長連合のように
目標に向かい前進を開始しはじめた

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

特別販売促進チームは可能性を秘めたチームだった
今までは主に作業服・ヘルメット・安全用品・ノベルティーグッツの販売が主力だった
ただ　お客さんがロケットが欲しいと言えば探して販売できるチームだった
チームには作業服ヘルメット担当のヘルメッター殿間担当が受注を受けていた
安定した基盤だったが　今後はロケット方面への提案が大切になった

そこで公平は　まず新たに特販チームに配属となった梅山リーダーと
特販の展示棚をリニューアルした
本社受付横にある棚が殆ど放置状態（小さな虫が3匹死んでいました）
今までと違う商品サンプルと見せ方の展示を進めた

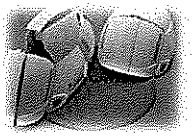
「貴社のブランドアップと販売促進のお手伝いをさせて頂きます」
と　ウソ八百のでかいPOPを飾った

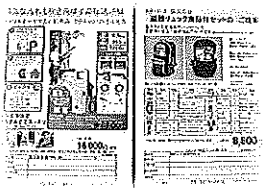
折りたたみヘルメットの展示品POPには　前セクションの山橋女史をモデルで
引っ張り出し　私も欲しい～ヘルメット　とPOPを作り　本当に購入してもらった（謝）

そんなこんなの展示PRとさまざまな提案を行い
金の汗にチラシを封入していった

ボールペンに名入れのチラシは　あっという間に3,000本の受注で
売上約30万円が「金の汗」から生まれるようになった

ウソ八百が五百・三百と減り　嘘から出た　誠に成っていった
明治維新のように　MSSの夜明けが近づいて行った





進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

ニュースレター金の汗は　ヤラセーヌ工業会員約330社と　各OPが過去現場にて
名刺交換して頂いたUM施工客約120社等　都合450社に対し
毎月郵送を行い　お客様の声を中心に　現場の汗のレポートをお届けした

創刊6ヶ月が過ぎる頃には　住所変更したので新しい住所お知らせしますなど
お互いのやり取りの反応が出てきた　リピート客からは「やっと現場でたよ～」
UM宜しくねとの声を頂くようになった

そして8ヶ月後　やっと初めてUM使います　レターを読み一度使ってみたかった・・
と　新規のお客様から受注を頂いた
各OPは「OH～　ヤッタ～」と歓声を上げた

またこのころ社内の営業からもお客様の所でUM勉強会を開催して欲しいとの
声があり　お客様の元にOPと訪問し生の声を伺いPR活動を強化した

公平は思った　この初めての1件が大事　　この1件が100件200件へと続く道
初めてのお客様に「早くて助かりました　もっと早くUMを使用すれば良かった」
との　声を頂けるか否かが　今後の全国制覇の試金石になると確信していた

そのころ　UMチームの合言葉は「チャレンジ200現場」から「全国制覇」に
代わっていた　まだ200現場も達成していなかったが・・・

その合言葉はまるで　戦後の焼け野原から高度経済成長期へと向かう
ワクワクした希望を各OPとMSS推進部に与えた

江口OPは勘違いして　昔バイクに乗っていた時に着ていた特攻服で
現場に行くのですか？と聞いてきた

そのころ　軽いなんちゃっては　全員で受け入れる器が出来ていた

進め！　公平

公平部長の奮闘記(MSS推進部編)

その日　全OPは芝山パークホテルにいた
12月年末　ヤラセーヌの結果発表会がとり行われていた

イケイケ(株)とヤラセーヌは　販売協力を結び　年間を通じて
材料の販売目標をお互い合意し拡販に努め　毎年結果を確認
その労をねぎらっていた
但し　昨今は　当初の目標が最終的に未達成で終わり
残念会となる事が数年続いていた

UMマシンのOPは　そのヤラセーヌの商品のみを扱う専門集団だった
各OPは　我々が目標達成への切り札だと考えていた

そこには　なんちゃって‥の思いは一切なかった
切り札カードは　ブタでなく　俺たちはキングだ‥との思いがあった

夏　気温38度　UMマシン近くは48度　体感温度55度の中
記録を作る施工を行った
施工後　野生児と呼ばれていた江口OPは　吐いた
軽い熱中症だった

冬　気温1度　手がかじかんで暖気に時間がかかる中　朝3時起きで
松井OPは現場に向かった その夜はコンパ　飲んだ　飲んだ　我を忘れ
飲んで　吐いた　軽い二日酔いだった

秋　先輩OPと現場同行しすべてをメモした石山OPは　継に続く人の為
新マニュアルを作成した　その夜はコンパ　生焼きを食った　食った　たらふく食った
そして　吐いた　軽い食あたりだった

UMマシンチームのみならず産廃チーム　特販チームも　少し変なキングの顔つきで
年末を迎えた　その会場は熱気に満ち　MSS推進部のキング達は
戦い切った顔で集った　もうそれだけで十分だった･･･

俺たちは勝った！･･　俺たちはキングだ･･　銀の汗くさいキングだ･･

輝く　皆の笑顔を見ながら
最後に公平は　思った･･･　クィーンはどこにいるのだ･･･　今日は吐く　と　･･

(完)

【最後に】

お陰様で　ついに「進め！物流部」「進め！物流部パートⅡ」に次ぐ　待望の3作目
「進め！MSS推進部」が完成しました

UNマシンの拠点は東京物流センターにあり　産廃チームの拠点は
埼玉物流センターにあります
朝UNの件で物流センターに伺うと　なじみのドライバーさんが
「あっ　おはよーございます」
と　明るく　活気ある　いつもと変わらぬ　笑顔で　声をかけてくれます
とても元気をもらえる現場なのです

会社の利益はどこから生まれるか　　それは　絶対に現場です

そう現場を大切にしたい　現場の人達を大切にしたい
そして　現場の人達が
「今　この仕事をしているのが一番楽しいです」
という　言葉を多く聞きたい

この想いは　物流部からMS営業推進部に異動なっても変わりません
そして　今　MS営業推進部の皆が　楽しそうに仕事をし始めました

でも　一番楽しそうにしているのは実は　私なのです

物語にすることによって
問題の中に自分を入れない　引いて考える　時間軸を長くするなど
客観的視点に立った多人称視点の自分を見つめる事が出来ます
（公平が勝手にやっている事です）心理学で言う所のメタ認知です

この1年間は　人生の中で決して忘れる事が無い体験をしました
まだまだ修業は続きます　出すぞ　底力！

今後共　宜しくお願い申し上げます　　ありがとうございました

2013年7月吉日
化研マテリアル(株)
MS営業推進部　部長
坂本　尚也
sakamoto@kaken-material.co.jp